

編集委員会活動報告

日本心理学会では現在、機関誌として、『心理学研究』と『Japanese Psychological Research』（以下 JPR）の学術誌 2 誌と、啓発・情報誌『心理学ワールド』の計 3 誌を発行しています。このうち『心理学ワールド』（本誌）は岡隆委員長の下、本誌編集委員会が編集にあたっていますが、前記の学術誌 2 誌については、機関誌等編集委員会が直接編集にあたっています。

編集委員会の小委員会について

現在、編集委員会の下には、前の期から引き続いて「JPR のあり方検討」小委員会（坂田省吾委員長）と「電子化に伴う執筆・投稿の手引き改訂」小委員会（森川和則委員長）が設置されていて、それぞれ、担当事案について検討と作業を進めています。

その他に本年 1 月から新たに「投稿基準に関する」小委員会（坂上貴之委員長）を設置しました。この小委員会の検討課題の一つは、二重投稿の“基準”についてです。本学会では既に「倫理規程」（2009 年）と「執筆・投稿の手引き」（2005 年改訂版）で二重投稿の禁止を謳っていますが、その具体的な対処については明確にしていませんでした。そこで、この小委員会では、どのような場合が二重投稿にあたるのか、たとえば、国際学会の Proceedings に公表された内容と似た内容をもつ論文が『心理学研究』や『JPR』に投稿された場合、その論文を二重投稿とみなすかどうか、その基準を明確にすることを試んでいます。同時に、この小委員会では、他の研究者が開発した方法を使用して行った研究の論文が投稿された場合の取り扱いについても検討しています。質問紙などの尺度類を使用して研究を行う場合、開発者の許諾を得ることが必要になる場合がありますが、その許諾の必要性の基準に関して、また、心理テストなどの改変や一部利用についての取扱いに関して、学会としての統一的な見解を作ることを試みているわけです。

いずれ、上記三つの小委員会からの答申を得て、本学会として、それぞれの懸案事項に関する取扱い手続きや見解などを確定させ、明示する予定です。

新電子投稿システムへの移行について

本年 4 月より、『心理学研究』と『JPR』の投稿および審査は、下記の新しい電子投稿システムで行われています。

https://jpa.bunken.org/jpa/user_logins/jp/

（日本語版）

https://jpa.bunken.org/jpa/user_logins/en/

（英語版）

（なお、日本語での入力が可能な方は、新規アカウント発行を必ず日本語で行ってください。）

ただし、本年 3 月 31 日までに旧電子投稿システムで投稿いただき、現在審査中の論文（投稿後の修正も含め）は、そのまま旧システムにて審査を続けます。

『心理学研究』と『JPR』は、会員以外の方からの投稿も受け付けています。多くの研究者からの両誌への投稿をお待ちしています。また、お知り合いの外国人研究者の方には、上記英語版 URL からの投稿をお勧めください。

『心理学研究』、『JPR』の今後について

幸いなことに昨年から今年にかけて両誌（特に『心理学研究』）への投稿数は増加しています。両誌ともに、審査の迅速性と適切性をさらに高め、投稿者にとって、より魅力のある学術誌となるように鋭意努力していきます。

しかしながら、学術誌の世界的状況を見ても、特に英文誌である『JPR』については、より大きな改変を見据えていかなければならない状況に直面していると言わざるを得ません。現在、多くの国際学術誌は、望むと望まざるとに拘わらず、直接に間接に、数社の大手 publishers の轆の下、つまりは市場経済の競争原理の下に置かれています。しかしながら、このような状況がよいのかどうか、現状をただ単に是認することなく、自らの力でよりよい学術誌の姿を追い求めるべき時期に来ているのかもしれない。closed access に代わる open access、インパクトファクターに代わる他の評価システム、等々の議論も世界的に喧しくなっているようです。現実を見据えた継続的運営を基本としながらも、学会として、公益組織として、多くの研究者が望む理想的学術誌の姿を意識しつつ編集にあたりたいと思っています。

（編集担当常務理事・北海道大学名誉教授
阿部純一）